

ステムリム (コード 4599)

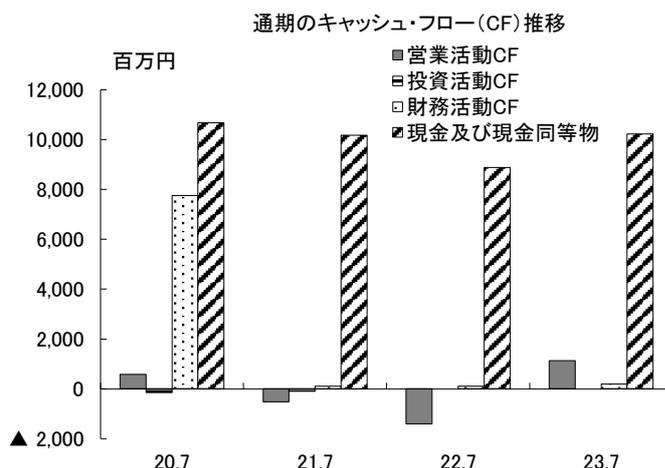
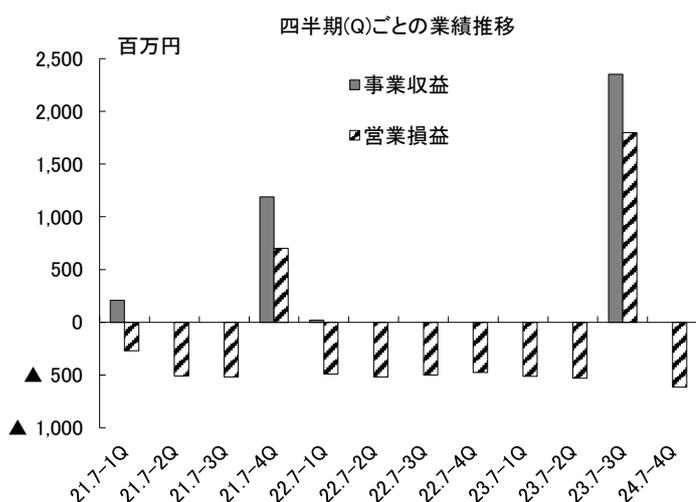
◆通期業績推移(非連結) (24.7 予は会社側非開示につき表記しない)

決算期	事業収益	営業損益	1株純損益	1株配	営業CF	投資CF	財務CF	現金及び現金同等物
20.7	2,100	415	6.4	0.0	575	▲153	7,757	10,675
21.7	1,400	▲593	▲10.0	0.0	▲519	▲92	109	10,172
22.7	22	▲1,980	▲32.9	0.0	▲1,404	▲0	112	8,880
23.7	2,350	142	2.8	0.0	1,135	▲0	202	10,217

◆各決算期の第2四半期業績推移(非連結) (24.7 予は会社側非開示につき表記しない)

決算期	事業収益	営業損益	1株純損益	1株配	営業CF	投資CF	財務CF	現金及び現金同等物
20.7	—	▲465	▲9.9	0.0	▲385	▲4	7,720	9,827
21.7	210	▲777	▲13.5	0.0	▲769	▲32	95	9,968
22.7	22	▲1,006	▲17.1	0.0	▲545	▲0	92	9,719
23.7	—	▲1,042	▲17.0	0.0	▲569	—	99	8,410

(CF=キャッシュ・フロー。現金及び現金同等物は各期末値。▲はマイナス。単位は百万円、円)



23年7月期の業績概況…23年7月期の業績は、塩野義製薬とライセンス契約を締結している再生誘導医薬開発品レダセムチド (HMGB1 より創製したペプチド医薬) について、急性期脳梗塞を対象とした治療薬開発に関するマイルストーンを達成し、約 24 億円を事業収益に計上。3 期ぶりに営業損益が黒字となった。

当期の事業収益は 23 億 5,000 万円 (22 年 7 月期は 2,200 万円)、営業利益は 1 億 4,200 万円 (同 19 億 8,000 万円の損失)、経常利益は 1 億 4,500 万円 (同 19 億 7,200 万円の損失)、当期純利益は 1 億 6,800 万円 (同 19 億 4,800 万円の損失) となった。急性期脳梗塞を対象としたレダセムチドの開発について、日本、米国、欧州及び中国にてグローバル後期第Ⅱ相試験の開始に伴う開発マイルストーンを達成し、第3四半期 (23 年 2~4 月) に事業収益として 23 億 5,000 万円を計上。利益面では、事業収益の計上により、研究開発費 15 億 6,700 万円 (22 年 7 月期比 10.3%増) を含む事業費用 22 億 700 万円 (同 10.2%増) を吸収し、営業損益、経常損益、当期純損益は黒字となった。研究開発費の増加は、研究開発進捗に伴う研究開発機器への投資促進や、次世代の再生誘導医薬評価のための試薬消耗品・外注費の増加などによる。

当期末現在の貸借対照表について、資産においては、流動資産が 104 億 4,000 万円 (22 年 7

月期末比 12.7%増) に増加。このうち、事業収益の計上に伴い、現金及び預金が 102 億 1,700 万円 (同 15.1%増) に拡大した。固定資産については、減価償却などにより、2 億 6,600 万円 (同 20.4%減) に減少した。負債・純資産においては、未払金の増加などによって流動負債が 2 億 1,700 万円 (同 205.6%増) に、固定負債が 1 億 1,800 万円 (同 1.7%減) になったほか、利益剰余金の増加などにより、純資産は 103 億 7,000 万円 (同 10.3%増) に増加した。

キャッシュ・フロー (以下、CF) の状況については、当期末現在の現金及び現金同等物の残高は 102 億 1,700 万円 (22 年 7 月期末比 15.1%増) となった。営業活動による CF は、税引前当期純利益 1 億 7,000 万円 (22 年 7 月期は 19 億 4,600 万円の損失)、株式報酬費用 5 億 6,600 万円 (22 年 7 月期比 2.0%増)、前払費用の減少額 1 億 3,300 万円 (同 250.0%増)、未収消費税等の減少額 1 億 300 万円 (22 年 7 月期は増加額 6,600 万円)、未払消費税等の増加額 1 億 1,700 万円 (22 年 7 月期は無し) などにより、11 億 3,500 万円の収入 (同 14 億 400 万円の支出) となった。投資活動による CF は 100 万円未満の支出 (22 年 7 月期比 4.2%増) となった。財務活動による CF は、株式の発行による収入 2 億 500 万円 (同 78.3%増) などにより、2 億 200 万円の収入 (同 80.4%増) となった。

24 年 7 月期の業績見通し…24 年 7 月期の業績について、会社側では「当社における現在の事業収益は開発進捗に伴うマイルストーン収入がその大半を占めており、これらの収入は提携先の開発戦略及び開発スケジュールに大きく依存している。当社がマイルストーン収入の受領時期を予想することは困難であり、事業年度ごとの事業収益額に大きな変動が生じる可能性がある」とし、現時点では合理的な業績予想の算定が困難であることから、予想値を公表していない。

会社側では、レダセムチドに続く次世代の再生誘導医薬開発候補品について臨床試験及びライセンスアウトにむけた交渉が引き続き進捗することや、レダセムチドについても引き続き適応拡大に向けた研究開発が進捗することを見込んでいる。今期にかかる現金収支については、研究開発にかかる現金支出は 12 億円～16 億円、一般管理費にかかる現金支出は 2 億 3,000 万円～3 億 1,000 万円を見込んでいる。また、新規提携に伴う一時金や、導出済みのパイプラインについて既存の提携先からのマイルストーン収入や一時金が発生する可能性がある、としている。

本レポートは、会社側が発表した決算短信や決算説明資料などに基づき作成しており、証券投資の参考となる情報の提供を目的としたもので、証券の売買を勧誘する目的で作成したものではありません。株式の売買取引には、約定代金に対して手数料が必要となります。また、株式は、株価の変動により損失が生じる恐れがあります。投資に関する最終決定は、投資家ご自身の判断でなさいますようお願い致します。本レポートは各種データに基づいて作成していますが、その正確性・完全性を全面的に保証するものではありませんので、予めご了承下さい。なお、本レポートの著作権は西村証券に帰属しており、電子的・機械的などの方法を問わず、無断で本レポートを引用または複製、転送することを禁じます。

